



ごあいさつ

9月は、今年のかつてない暑さを引きずり、秋分の日まで真夏日が続きましたが、皆さん体調の変化やお疲れが出ていませんか。

神戸市会では、9月2日から例年より少し早い決算議会が始まり、10月10日まで開かれています。昨年度の決算を審議する決算特別委員会が設置され、9月9日から30日の間、各局決算を1日かけて審査し、全ての決算議案は賛成多数もしくは全会一致によって承認しました。本号は、私が質疑に立った、審査について報告いたします。

交通局決算の審査

【市バスの決算について】

自動車事業では、運賃改定の実施や路線再編、減便等を実施したものの経常損失は約2億円という結果であった。

また、資金不足比率は19.6%と前年度よりも悪化し、健全化団体への転落基準を何とか超えない水準にとどまったが、一般会計等からの支援等により何とか踏みとどまっている感のある自動車事業会計の決算の評価並びに今後の資金不足比率の見通し及び対策は？

ポイント

市バス事業は、まもなく100周年を迎える、市民にとって大事な財産。乗って支えることが、持続可能な事業につながります。

【地下鉄の技術職について】

事故やトラブルによる運行の見合わせは、乗客への影響だけでなく、安全性に対する不安が生じかねない。地下鉄の安全運行を昼夜努力して支えているのは「人」であり、特に技術職員の現場対応力の向上やその技術継承は市営地下鉄の安定的運行には欠かすことができない。技術職員の課題認識とともに、どのような方針、方策を進めようとしているか？

令和6年度の1日あたりの乗車人員は、前年度比約1.6%増、また、10月に実施した運賃改定の効果もあり、1日あたりの乗車料収入は前年度比約4.6%の増収。結果、前年度比約3億円増収となった。

しかし、累積資金不足は17億9,500万円となり、資金不足比率も前年度より悪化し19.6%となり経営健全化基準に迫っていることから、依然として危機的な状況にあると考えている。そのため、まずは、今年度、最終年度を迎えている「経営計画2025」や経営基盤強化パッケージの各施策を着実に実行し、乗務員の運転時分見直しや回送率向上等の効率的運行に向けた企業努力等に取り組む。また、次期経営計画の策定において、あらゆる増収策を模索する。

技術継承には、優秀な人材をいかに育てていくかが不可欠である。そこで、採用から退職までのキャリアプランを策定。また、『技士職スキル習熟度管理票』で必要な能力を見える化し、達成状況の認識や評価をできるようにした。

また、大手私鉄の協力による研修やノウハウを実体験し、自分たちのやり方を比較できるようにした。

【路線・ダイヤ変更の理解促進について】

非常に厳しい経営状況のなか、市バス事業の持続可能性を高めるため、路線の見直しや減便、ダイヤ変更等が実施されている。今後も多くの方にご乗車いただくことが求められているが、そのためには、より丁寧に理解を求める姿勢や周知方法に改善の余地があると思われるが、今後、どのように対応するのか？

市バスの現状と課題を乗客をはじめ市民と共有し、交通局の取組みやその意義をご理解いただくことが重要。これまでの路線見直しでは、周知方法や期間に改善すべき点があったと認識しており、今後は路線見直しなどの大きな変更の際には、十分周知が図れるおおむね半年前の告知を原則とすることとし、丁寧な説明に努めたい。

ポイント

路線変更やダイヤ改正の度に、市民の皆様からご意見をいただいていた。今回の私の質問により、大きな変更の場合はおおむね半年前から告知するとの改善策を引き出すことができました。

地域の安全・安心を確保しました

大日通3丁目にある宮本学童保育コーナー前の側溝のふたが老朽化し、一部が側溝に崩落し、子ども達にとって大変危険な状態であるご相談を頂きました。現地を確認すると、ふたは全体的に老朽化しており、鉄筋が一部むき出しになり、交換が必要でした。また、側溝のふたが取り付けられない部分(写真奥の電柱の箇所)もあり、市に対策をお願いしました。

その結果、学童の前にもかかわらず、歩道がないため、解放されていた側溝を暗渠化することにより、側溝にはまる危険排除と、子ども達の通行の安全を同時に確保できる構造に変更して頂きました。



公明党市会議員団控室

〒650-8570

神戸市中央区加納町6丁目5-1

TEL: 078-322-5842

